



比嘉 性一さん(右)、柚月さん(中央)、季美さん(左)

移住者インタビュー

「多くの方々の縁があつて移住ができた」
比嘉 性一さん、比嘉 季美さん、比嘉 柚月さん

お子さまの誕生を機に、昨年10月に大阪から移住された比嘉さんのご家族にお話を伺いました。

子育てに適した環境で生活を

「大阪で暮らしていた時は、子どもを預ける先がなくて困ったことがあります」と語られたのは、比嘉季美さん。元々小松島市のご出身で、医療関係の仕事しながら生活していた大阪で、滋賀県出身の性一さんとご結婚されました。昨

年に生まれた長女の柚月さんを育てるうえで困ったことが、子育てと仕事の両立だといいます。

「夫婦共働きで、いざという時子どもを預けることができなないので、どちらかの実家の近くに移住したいという思いがありました」

そのように考えたころ、季美さんのご実家の近くで宅地の新規分譲が行われていると知り、家族で小松島に移住すると決めたとのこと。

多くの人の縁があつて新たな生活作りができる

小松島への移住は、宅地分譲のタイミングだけでなく、小松島市移住交流センターからの支援も大きな後押しになったとご夫婦は語られました。同センターのサイトから移住に関する情報を収集し、センターの移住コンシェルジュの方からアドバイスを受たり、性一さんの転職先の紹介を受けるなどのサポートがあり、移住はスムーズに進んだとのこと。

「紹介を受け建築土木業の事業所に勤めていますが、入

社したばかりの私の意見も聞いてもらえるなど、風通しのいい職場だと思っています」と性一さんは話されました。

取材中、ご夫妻が「都会と違って温かくゆったりとした時間が流れているのがいい」と話されているところが印象的でした。子育てや地域の情報提供、転職先の紹介など、ご実家や移住コンシェルジュの方を始め、地域の様々な方と縁ができて、協力し合える環境にあることが魅力的なようでした。性一さんにとっては今まで縁がなかった土地への移住となったため、「地域の人々の温かさを知ってもらえたら」と季美さんは思いを語られました。

医療職の経験を活かし、今春から阿南市の放課後デイサービスの事業所で働く予定の季美さんは、作業療法士として経験を積んで、いつか地域の保護者の方に対して療育の悩みを聞いてあげられるようなカフェを開業するのが夢とのこと。地域の人々の縁をさらに広げる夢を熱く語られていました。

避難所における生活環境改善を目指して

「災害時における段ボール製品の供給に関する協定」を締結

2月5日、小松島市と日本青果包装株式会社との間で「災害時における段ボール製品の供給に関する協定」が締結され、小松島市役所にて執り行われた調印式では、中山市長と日本青果包装株式会社の中西代表取締役社長がそれぞれ協定書に調印しました。

この協定により、地震や風水害などの災害が発生した際に、避難所での利用が想定される段ボールベッドやパーテーションなどの段ボール製品が本市に供給され、避難者の健康被害軽減、プライバシー保護や感染症対策など、避難所における生活環境の早期改善が期待されます。



協定書を手にする中山市長と中西代表取締役社長(右)